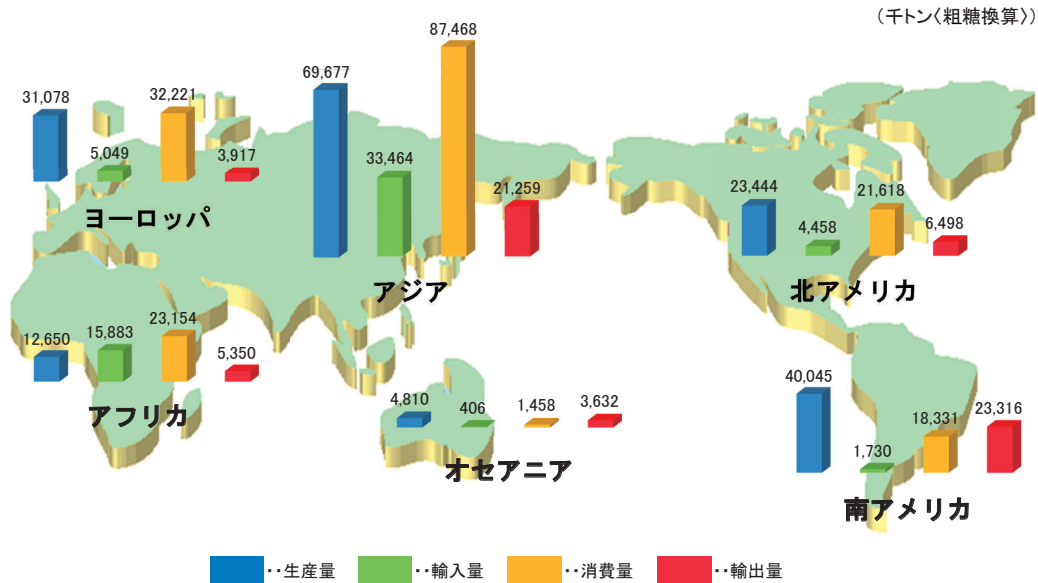


砂糖の国際需給

調査情報部 塩原 百合子

1. 世界の砂糖需給（2019年9月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給（2019/20年度予測値）



資料：英国の民間調査会社LMC International「Quarterly Statistical Update, September 2019」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

注2：ヨーロッパには、EU加盟国とロシアほか17カ国を含む。

LMC International（農産物の需給などを調査する英国の民間調査会社）の2019年9月時点の予測によると（以下、特段の断りがない限り同予測に基づく記述）、2019/20砂糖年度（10月～翌9月）の世界の砂糖生産量は、1億8171万トン（粗糖換算〈以下、特段の断りがない限り砂糖に係る数量は粗糖換算〉）、前年度比2.6%減）とわずかに減少すると見込まれている（表1）。アフリカや南アメリカは前年度を上回る一方、アジアではインドやタイで干ばつや豪雨によってサトウキビの生育が停滞し、収穫量が減少することでかなりの程度減少するとみられる。

同年度の世界の砂糖消費量は1億8425万トン

（同0.1%増）と横ばいで推移すると予測されている。世界の砂糖需要をけん引するアジアは昨今の景気動向を反映し、引き続き堅調に増加するほか、人口増を背景にアフリカも増加が見込まれている。一方、ヨーロッパでは健康志向の高まりなどから減少し、南アメリカでは経済成長の停滞が砂糖消費の伸びを抑制することで、アジアやアフリカでの増加を相殺するとみられる。

全体を見ると、2019/20年度は生産量が消費量を下回り、期末在庫率は41.3%と見込まれることから、供給過剰となった前年度と比較して3.1ポイント改善する見通しである。なお、地域別の砂糖需給は、図1の通りである。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン〈粗糖換算〉、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1989/90	29,879	108,244	27,973	105,790	29,126	31,180	29.5
1994/95	41,641	116,726	31,803	112,686	32,672	44,812	39.8
1999/2000	62,812	133,133	36,409	127,942	39,734	64,678	50.6
2004/05	63,697	144,251	47,084	146,907	50,426	57,700	39.3
2009/10	55,017	160,315	56,023	164,778	56,244	50,333	30.5
2014/15	69,506	183,717	59,707	176,511	62,081	74,338	42.1
2015/16	74,338	175,955	67,776	179,659	69,077	69,334	38.6
2016/17	69,334	180,387	70,759	181,572	71,288	67,619	37.2
2017/18	67,619	195,315	67,377	180,681	69,466	80,164	44.4
2018/19	80,164	186,627	60,445	184,027	61,592	81,618	44.4
2019/20 (2019年9月予測)	81,618	181,706	60,991	184,250	63,971	76,093	41.3

資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, September 2019」

注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。

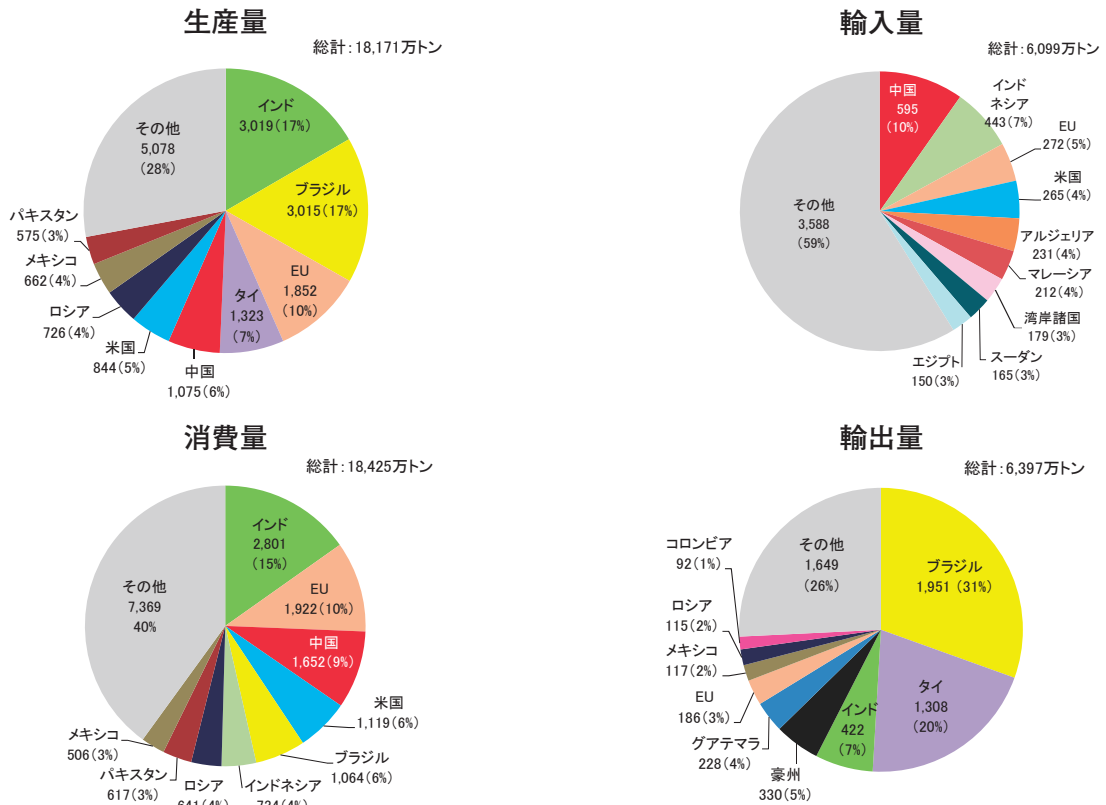
注2：2017/18年度以降は予測値。

注3：期末在庫量は（期首在庫量+生産量+輸入量-消費量-輸出量）。

注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

2. 主要国の砂糖需給（2019年9月時点予測）

図2 主要国の生産量、輸入量、消費量、輸出量（2019/20年度）



資料：LMC International「Quarterly Statistical Update, September 2019」

注1：主要国の年度は、各国の砂糖年度。

注2：主要国とその他を表示。

注3：「その他」は総計から主要国の計を差し引いた数値。

注4：輸入量のうち「湾岸諸国」は、アラブ首長国連邦、バーレーン、オマーン、カタールの合計。

【生産量】

2019/20年度の砂糖生産量を国別に見ると、インドは、干ばつや豪雨などの気象災害が各地で発生しサトウキビが減産となることから、3019万トン（前年度比15.2%減）とかなり大きく減少すると見込まれている（図2）。

ブラジルは、砂糖の国際価格の低迷を受けてサトウキビのエタノール生産への仕向け割合が65%に達する勢いで推移していることなどから、3015万トン（同3.7%減）とやや減少すると見込まれている。

EUは、春先から7月ごろにかけて高温で乾燥した気候となったが、その後一部の地域で降水量が回復し、気温も平年並みに下がったことで、てん菜はおおむね順調に生育すると予想されるため、1852万トン（同1.4%増）とわずかに増加すると見込まれている。

【輸入量】

中国は、砂糖生産量が消費量を下回り、不足分を輸入で補うことが予想されるため、595万トン（前年度比31.0%増）と大幅に増加すると見込まれている。

他方、インドネシアは、砂糖の在庫量がここ10年間で最多となり、輸入糖の需要が低下すると見込まれるため、443万トン（同18.0%減）と大幅に減少すると見込まれている。

【消費量】

インドやインドネシアでは、昨今の景気動向や個人消費が堅調に推移していることを踏まえ、それぞれ2801万トン（前年度比2.0%増）、734万トン（同2.3%増）と増加が見込まれている。

他方、EUは健康志向の高まりなどを背景に消費量が伸び悩み、1922万トン（同0.6%増）と横ばいで推移すると見込まれている。

【輸出量】

ブラジルでは、砂糖の国際価格の低迷を背景に、砂糖の輸出に消極的でバイオエタノール生産を加速させる動きがあることから、1951万トン（前年度比7.0%減）とかなりの程度減少が見込まれている。

インドは、砂糖の過剰在庫の解消に向け、補助金政策など輸出に対する政府介入の度合いが強まっているものの、砂糖の国際価格の低迷が輸出を妨げることから、422万トン（同17.9%減）と大幅な減少が見込まれている。

豪州は、砂糖の減産や国際価格の低迷が影響し、330万トン（同15.1%減）とかなり大きく減少すると見込まれている。

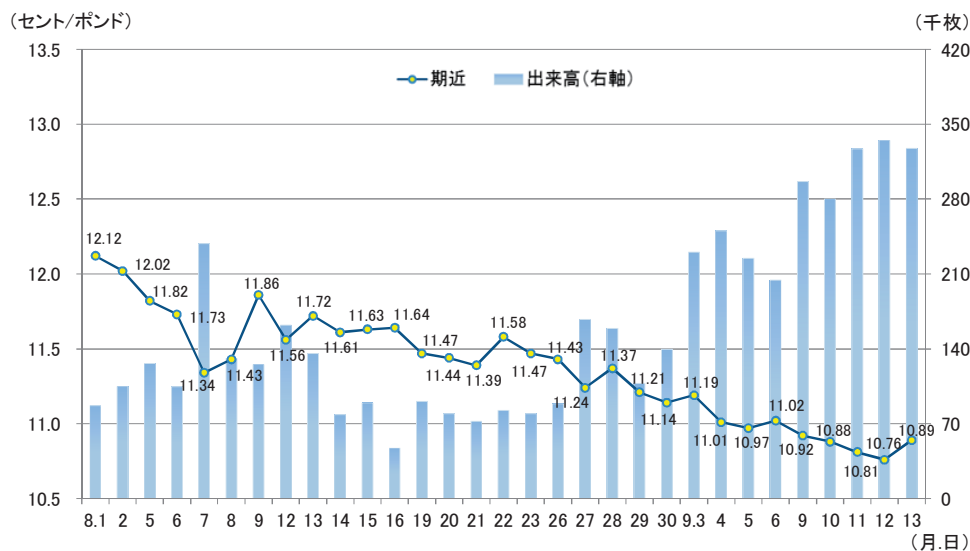
他方、タイは、砂糖の国内消費の落ち込みをカバーするため輸出意欲が高まることから、1308万トン（同23.4%増）と大幅に増加すると見込まれている。

3. 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き（8/1～9/13）

～徐々に下落し、9月上旬には11セント台を割り込む～

図3 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所（ICE）
注：10月限の値。

ニューヨーク粗糖先物相場の2019年8月の推移を見ると（10月限^{がつぎ}）、2日までは1ポンド当たり12セント^{（注1）}前半で推移したが、週明けの5日から週半ばにかけては、供給過剰への懸念が再び強まり下落し、7日には同11.34セントとなった（図3）。その後は、売られ過ぎの反動から上昇に転じ、9日は同11.86セントの値を付けた。週明けの12日以降は、短期的な供給過剰の見通しが相場を圧迫するも、長期的には供給不足に転じると予測されることから、同11セント台半ばでもみ合いが続き、21日は同11.39セントの値を付けた。22日は、ブラジル産砂糖生産量の見通しが下方修正されたほか、中国の購買意欲が高まっているとの観測が相場を押し上げ、同11.58セントまで値を戻した。23日の反落後は続落し、27日はブラジルの通貨レアルが1年ぶりの安値を記録したことで同11.24セントまで値を下げた。28日は、エネルギー価格が上昇

したことでバイオエタノール生産が促進される^{（注2）}との予測やレアル高が相場を押し上げ、同11.37セントとなった。29日は、前日にインド政府が2019/20年度に砂糖輸出への補助金を支出すると発表したことを受けて同11.21セントまで下落した。30日は、インドの通貨であるルピー安やレアル安といった為替変動が相場をさらに圧迫し、同11.14セントまで値を下げた。

9月に入っても相場は上昇せず、5日は、インドやタイの砂糖生産量予測が上方修正されたことを受けて、2018年9月以来の安値である同10.97セントとなった。6日は反発し同11.02セントとわずかに値を戻したが、翌日には再び下落に転じ、12日には同10.76セントの値を付けた。13日は、同10.89セントと5営業日ぶりに上昇したものの、同11セント台まで値を戻すことはできなかった。

(注1) 1ポンドは約453.6グラム、セントは1米ドルの100分の1。

(注2) 一般に、原油などのエネルギー価格が上昇すると、代替燃料であるバイオエタノールの需要が増加する。バイオエタノールの需要が増加すると、その原料作物（サトウキビ、てん菜、トウモロコシ、

キャッサバなど）のバイオエタノール生産への仕向けが増えるため、それらから生産される食品（サトウキビの場合は砂糖）の供給が減る方向に作用する。その結果、需給ひっ迫の懸念が強まり、商品相場は上昇する傾向にある。

4. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2019年9月時点予測）

本稿中の為替レートは2019年8月末日TTS相場の値であり、1インド・ルピー＝1.65円である。

ブラジル

2019/20年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：847万ha（前年度比2.0%減）
生産量：6億2900万トン（同1.3%増）

【砂糖（甘しゃ糖）】

生産量：3015万トン（同3.7%減）
輸出量：1951万トン（同7.0%減）

2019/20年度、輸出量はかなりの程度減少する見込み

2019/20砂糖年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は、砂糖の国際価格の低迷により他作物へ転作する動きが見られるため、847万ヘクタール（前年度比2.0%減）とわずかに減少するが、生育状況がおおむね良好であることから、サトウキビ生産量は6億2900万トン（同1.3%増）とわずかに増加すると見込まれている（表2）。砂糖の国際価格の低迷が長期化していることから、サトウキビのエタノール生産への仕向け割合が増加するとの見通しの下、砂糖生産量は3015万トン（同3.7%減）とやや減少し、輸出量は1951万トン（同7.0%減）とかなりの程度減少すると予測されている。

米国産エタノールの輸入について、無税枠を1年間に限り拡大

ブラジル政府は、米国産エタノールの輸入について、8月31日で期限切れとなる無税の関税割当枠

600万リットルを、2019年9月1日から2020年8月31日までの1年間に限り、750万リットルに拡大して運用することを発表した。なお、割当枠外で輸入する場合は南米南部共同市場（メルコスール）域外関税である20%が課せられる。

中南部地域を統括するブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）^(注)は「今回ブラジルが譲歩して米国との貿易自由化へ積極的な姿勢を見せたことで、今後米国もブラジル産砂糖の割当枠拡大に動く可能性がある」と政府の発表を高く評価した。一方、北東部の製糖協会は、無税枠で輸入されたエタノールが北東部のみで販売されると地元のバイオエタノール産業が壊滅的な被害を受けるため、米国産エタノールの販売先を分散させるとともに、北東部でバイオエタノールが生産される10月から翌2月には販売させないなどの配慮を政府へ要求するとしている。

(注) ブラジル全体の砂糖生産量の9割を占める中南部地域を管轄区域とする業界団体。

表2 ブラジルの砂糖需給の推移

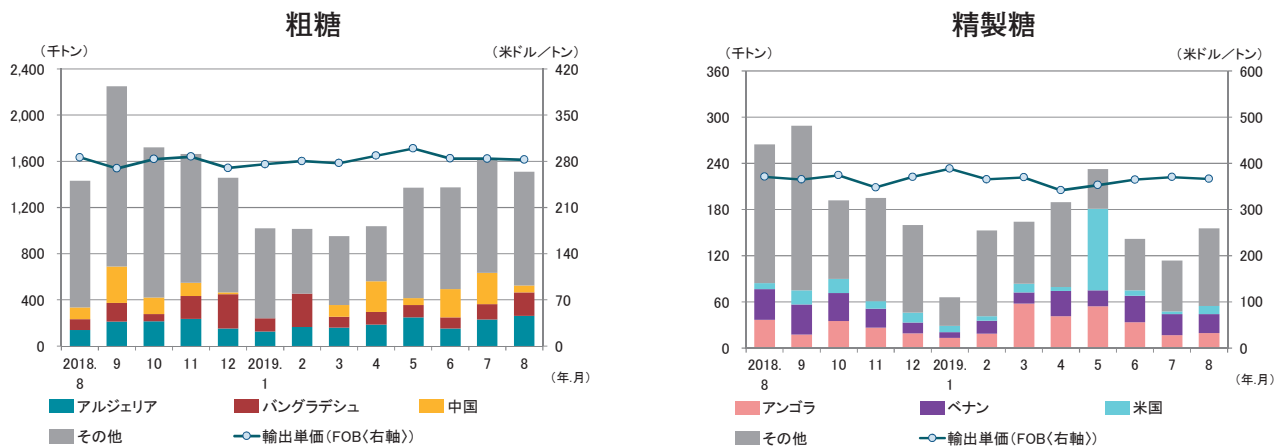
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (8月予測)	2019/20 (9月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	8,488	8,617	8,649	8,473	8,473	▲ 2.0
サトウキビ生産量	651,841	641,066	620,825	629,000	629,000	1.3
砂糖	生産量	41,670	41,490	31,300	30,139	▲ 3.7
	輸入量	4	2	3	3	▲ 9.6
	消費量	11,275	10,852	10,635	10,635	0.0
	輸出量	30,117	31,026	20,969	19,504	▲ 7.0
	期末在庫量	1,022	636	336	339	0.9
	期末在庫率	2.5	1.5	1.1	1.1	0.06ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, September 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量(累計)上位3位を表示。

インド

2019/20年度(10月～翌9月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：461万ha(前年度比8.7%減)

生産量：3億6926万トン(同7.5%減)

【砂糖(甘しゅ糖)】

生産量：3019万トン(同15.2%減)

輸出量：422万トン(同17.9%減)

2019/20年度、輸出量は大幅に減少する見込み

西部地域で発生した洪水や東部地域の干ばつの影響を受けてサトウキビの生育が停滞していることから、2019/20砂糖年度(10月～翌9月)のサトウキビの収穫面積は461万ヘクタール(前年度比8.7%減)、サトウキビ生産量は3億6926万トン(同7.5%減)と、ともにかなりの程度減少すると見込

まれている(表3)。

サトウキビの減産に加えて、9月にサトウキビ由来バイオエタノールの買い取り価格が引き上げられたことでエタノール生産への仕向け割合が増加すると予想されるため、砂糖生産量は3019万トン(同15.2%減)とかなり大きく減少すると予測されている。輸出量は、インド政府が製糖業者に対し輸送費などへの助成措置を行うと発表した(後述)ものの、

砂糖の国際価格が低迷していることから、422万トン（同17.9%減）と輸出量が急増した前年度と比較して大幅な減少が見込まれている。

2019/20年度も、砂糖の輸出補助金の支出を決定

内閣経済対策委員会（CCEA）は8月28日、2019/20年度も引き続き砂糖の輸出を促進するため、製糖業者に対し総額626億8000万ルピー（1034億2200万円）の補助金を支出して600万トンを輸出する計画を承認した。砂糖の製造に要する経費のほか、輸送費や輸出業者へ支払う手数料なども補助の対象とする。

CCEAによると、2019/20年度の砂糖の期末在庫は国内消費量の半数に相当する1620万トンと見込まれている。政府は過剰供給を解消するため、400万トン規模の砂糖の調整保管やサトウキビ由来のバイオエタノール生産の推進を行っているが、それでも600万トンの余剰が生まれると予測されることから、今回の輸出補助政策に踏み切ったとしている。

しかし、砂糖業界関係者からは、今回承認された補助金の総額は予想より少なく、輸出を促進するには不十分であるとの意見が出ている。また、砂糖の国際相場が1ポンド当たり12セント以下で推移し続ければ、インドは350～400万トン程度しか砂糖を輸出できず、600万トンを達成するには相場

が同13セント以上に回復する必要があると指摘する声もある。

マハラシュトラ州、サトウキビ不足を受けて圧搾開始日を延期か

マハラシュトラ州政府によると、6～7月の少雨や8月に発生した洪水の影響を受けてサトウキビの生育が滞り、製糖工場に搬入されるサトウキビが不足すると見込まれている。同州には約200の製糖業者が存在するが、サトウキビの不足により2019/20年度中の操業を取りやめる製糖業者は最大50者、製糖期間を短縮して操業する業者は100者に上るとみられる。インド製糖協会（ISMA）は、少雨や洪水の被害を受けたサトウキビの回復を待つために、前年度は10月20日に開始された圧搾を11月15日まで遅らせるよう州政府に要求したほか、マハラシュトラ州協同組合製糖工場連盟も、圧搾開始日を12月1日に後ろ倒しするよう主張している^(注)。

西インド製糖協会の予測によると、マハラシュトラ州の2019/20年度の砂糖生産量は、過去最高となった前年度の1070万トンから最大で48.6%減少し、550万トンと見込まれている。

(注) マハラシュトラ州では、州政府が砂糖業界関係者と協議の上、サトウキビの圧搾開始日を決定する。それより早く操業を開始した製糖業者には罰金が課せられる。

表3 インドの砂糖需給の推移

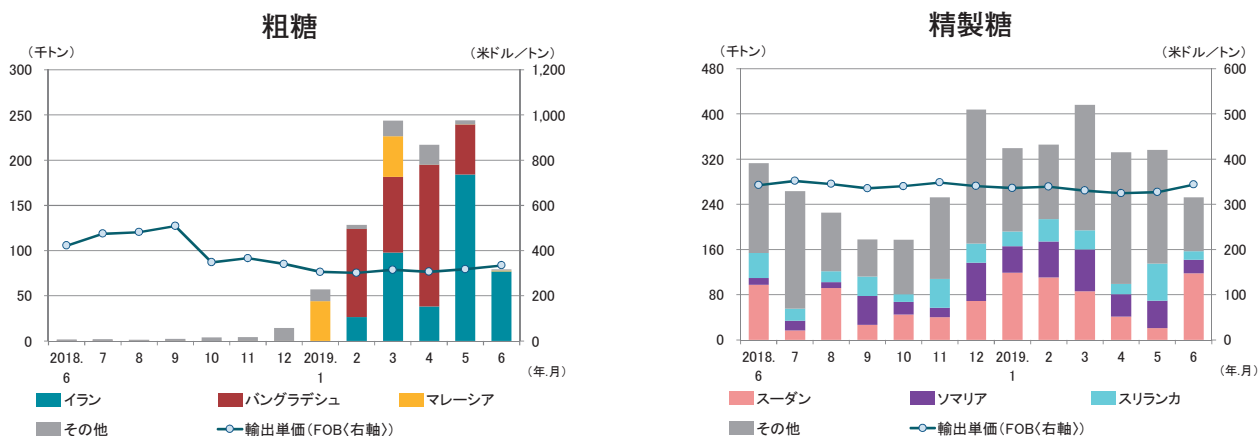
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (9月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	4,327	4,825	5,053	4,613	▲ 8.7	
サトウキビ生産量	323,556	408,655	399,287	369,262	▲ 7.5	
砂糖	生産量	21,848	35,043	35,583	30,191	▲ 15.2
	輸入量	2,536	2,306	550	100	▲ 81.8
	消費量	26,568	26,929	27,460	28,006	2.0
	輸出量	2,233	2,361	5,140	4,220	▲ 17.9
	期末在庫量	3,952	12,012	15,545	13,610	▲ 12.4
	期末在庫率	13.7	41.0	47.7	42.2	5.5ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, September 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖 (粗糖・精製糖別) の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3位を表示。

中国

2019/20年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：122万ha（前年度比0.4%増）

生産量：7369万トン（同6.2%減）

【てん菜】

収穫面積：24万ha（前年度同）

生産量：1137万トン（前年度比2.5%減）

【砂糖（甘しゃ糖およびてん菜糖）】

生産量：1075万トン（同7.6%減）

輸入量：595万トン（同31.0%増）

2019/20年度、輸入量は大幅に増加する見込み

2019/20砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は122万ヘクタール（前年度比0.4%増）とほぼ横ばいで推移するものの、雲南省では少雨や害虫被害が続いているほか、広西チワン族自治区でも日照不足が起これ、生産量は7369万トン（同6.2%減）とかなりの程度減少するとみられる（表4）。てん菜については、収穫面積は24万ヘクタール（前年度同）と横ばいで推移するが、内モンゴル自治区で害虫被害が出ていることから、生産量は1137万トン（前年度比2.5%減）とわずかな減少が予測されている。従って、砂糖生産量は1075万トン（同7.6%減）とかなりの程度減少するとみられる。輸入量は、国内消費分を賅うため、595万トン（同31.0%増）と大幅に増加すると見込まれている。

7月の砂糖輸入量、前年同月および前月を大幅に上回る

中国税関総署が8月23日に公表した2019年7月の貿易統計によると、砂糖の輸入量は、前年同月比77.7%増、前月比3.1倍の44万トンと大幅に増加した。2018年10月からの累計では、235万トン（前年同期比12.2%増）とかなり大きく増加している。ただし、上述した輸入量には、ミャンマーや台湾、韓国などの周辺国を經由した密輸分が含まれていないため、実際の輸入量はさらに多いと考えられる。現地報道によると、中国の東部に位置する江蘇省江陰市の税関は、2019年1月から8月の8カ月間で、密輸された砂糖を約2700トン押収したと発表した。同税関は、引き続き密輸の取り締まりに尽力するとしている。

表4 中国の砂糖需給の推移

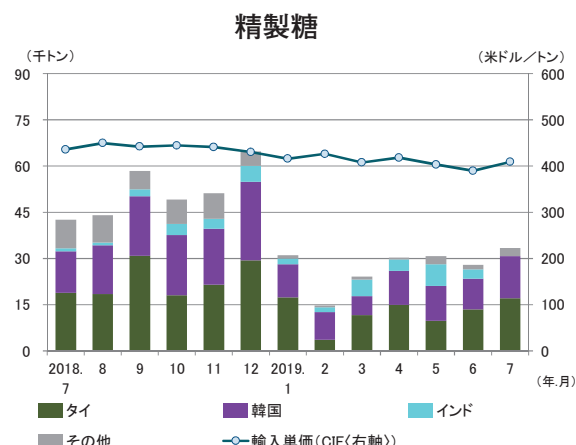
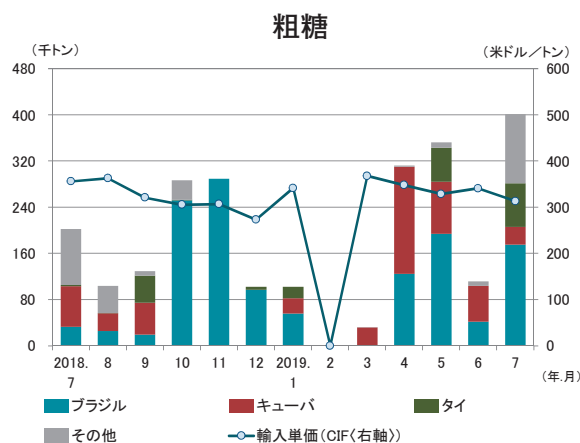
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (9月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,178	1,231	1,219	1,223	0.4	
サトウキビ生産量	73,690	76,780	78,590	73,686	▲ 6.2	
てん菜収穫面積	168	186	243	243	0.0	
てん菜生産量	8,820	9,590	11,670	11,373	▲ 2.5	
砂糖	生産量	10,041	11,147	11,640	10,753	▲ 7.6
	輸入量	5,715	6,117	4,542	5,949	31.0
	消費量	16,847	16,414	16,522	16,522	0.0
	輸出量	146	195	200	187	▲ 6.5
	期末在庫量	10,689	11,344	10,804	10,796	▲ 0.1
	期末在庫率	62.9	68.3	64.6	64.6	0.0ポイント増

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, September 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖(粗糖・精製糖別)の輸入量および輸入単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸入量(累計)上位3位を表示。

注3：2019年2月の粗糖は、輸入実績がなかった。

E U

2019/20年度(10月～翌9月)の見通し

【てん菜】

収穫面積：162万ha(前年度比5.1%減)

生産量：1億2189万トン(同6.6%増)

【砂糖(てん菜糖)】

生産量：1852万トン(同1.4%増)

輸出量：186万トン(同7.5%減)

2019/20年度、輸出量はかなりの程度減少する見込み

2019/20砂糖年度(10月～翌9月)のてん菜の収穫面積は162万ヘクタール(前年度比5.1%減)とやや減少すると見込まれている(表5)。ドイツやフランスといった主産地ではてん菜の生育が芳し

くないものの、降雨量や気温が良好に推移している地域もあることや、収穫までの生育期間がまだ残されていることを考慮し、てん菜生産量は1億2189万トン(同6.6%増)とかなりの程度増加すると予測されている。原料の増産が収穫面積の減少を相殺することで、砂糖生産量は1852万トン(同1.4%増)

とわずかに増加するとみられる。輸出量は、砂糖の国際価格の低迷を受けて、186万トン（同7.5%減）とかなりの程度減少すると見込まれている。

フランス、EUとメルコスール間のFTAに反対する声明を発表

南米南部共同市場（メルコスール）とEUは6月28日、自由貿易協定（FTA）について政治合意した。この協定が発効すれば、EUはブラジル産粗糖に対して現行の関税割当数量の範囲内で無税の割当枠を設けることとなる^(注)。しかし、フランス大統領府は8月23日、アマゾン川流域の熱帯雨林で発生している火災に関してブラジルのボルソナロ大統領の対応が不十分だとして、メルコスールとEUの政治合意に反対する旨の声明を発表した。

ブラジル国立宇宙研究所（INPE）によると、年初から8月下旬にかけてブラジル国内で発生した森林火災の件数は前年同期比84%増と大幅に増加している。今回の事態を招いた背景には、環境保護より経済成長を優先したブラジル政府の政策が影響したと指摘する声もある。フランスは従来、気候変動対策を取らない国とはFTAを結んでおらず、EU内のFTA批准手続きは難航が予想される。

（注）協定内容の詳細については、『砂糖類・でん粉情報』2019年8月号「3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2019年7月時点予測）」のブラジルの項をご参照ください。

気候変動により、ヨーロッパ南部のてん菜などの生産量は2050年までに半減か

欧州環境機関（EEA）は9月4日、ヨーロッパの農業と気候変動に関するレポートを公表し、温暖化を主とする気候変動によってヨーロッパ大陸南部における小麦、トウモロコシ、てん菜などの作物の生産量が2050年までに半減する可能性を示唆した。大陸の北部では作物の生育期間が延びることで生産量が増加し、南部における減少分の一部は相殺されるものの、世界的な食料需要の高まりによって作物の価格は上昇すると見込んでいる。今後は気候変動に適応できる作物の導入やかんがい技術の向上、ドローンや衛星データを用いた精密農業を圃場^{ほしよつ}レベルで進めることが重要であるほか、温室効果ガスや大気汚染物質の排出抑制のために、肥料の使用を削減したり、家畜の飼養方法を改善したり、食品のサプライチェーンを見直したりする必要があるとしている。

表5 EUの砂糖需給の推移

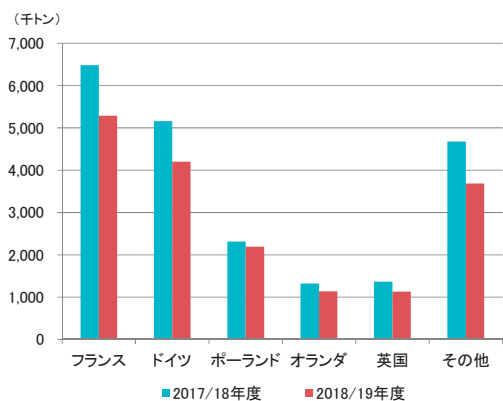
（単位：千ha、千トン、%）

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (9月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	1,466	1,732	1,710	1,623	▲ 5.1	
てん菜生産量	107,986	138,437	114,308	121,891	6.6	
砂糖	生産量	17,069	21,578	18,265	18,524	1.4
	輸入量	3,117	1,731	2,432	2,718	11.7
	消費量	19,177	19,219	19,111	19,218	0.6
	輸出量	1,510	3,809	2,011	1,860	▲ 7.5
	期末在庫量	2,312	2,593	2,169	2,332	7.5
	期末在庫率	11.2	11.3	10.3	11.1	0.8 ポイント増

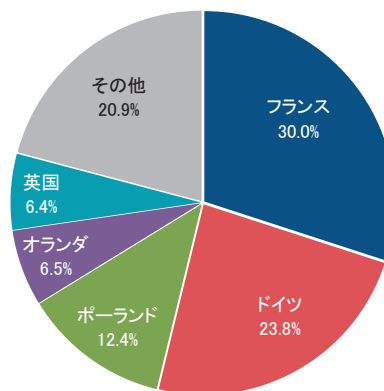
資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, September 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) EUの主要国別砂糖生産見通しおよび生産割合 (2019年7月時点)



資料：欧州委員会
注1：精製糖換算。
注2：2017/18年度および2018/19年度は予測値。



資料：欧州委員会
注：2018/19年度。

5. 日本の主要輸入先国の動向 (2019年9月時点予測)

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖〈HSコード1701.14-110〉および甘しや糖・その他〈同1701.14-200〉の合計）の主要輸入先国は、豪州、タイ、南アフリカ、フィリピン、グアテマラで、2018年の主要輸入先国ごとの割合は、豪州が71.1%（前年比1.6ポイント増）、タイが28.1%（同3.1ポイント増）と、この2カ国で9割以上を占めている（財務省「貿易統計」）。

豪州およびタイについては毎月の報告、南アフリカ、フィリピン、グアテマラについては、原則として3カ月に1回の報告とし、今回はグアテマラについて報告する。

豪州

2019/20年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：39万ha（前年度比1.3%増）

生産量：3097万トン（同4.9%減）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：436万トン（同7.8%減）

輸出量：330万トン（同15.1%減）

2019/20年度、砂糖生産量はかなりの程度減少する見込み

2019/20砂糖年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は39万ヘクタール（前年度比1.3%増）とわずかに増加するものの、高温少雨な気候がサトウキビの生育を妨げ、サトウキビ生産量は3097万トン（同4.9%減）とやや減少すると見込まれている（表6）。サトウキビの減産に加え、CCS（可製

糖率）も前年度よりやや低く推移していることから、砂糖生産量は436万トン（同7.8%減）とかなりの程度減少するとみられる。また、輸出量は砂糖の国際価格の低迷で輸出を控える動きが見られることから、330万トン（同15.1%減）とかなり大きく減少すると予測されている。

インドの新たな輸出補助政策を批判

世界貿易機関（WTO）は8月15日、グアテマラ、ブラジル、豪州のそれぞれの政府からインドの砂糖産業への支援政策に対する2回目の申し立てを受けて、裁判の一審に当たる紛争処理小委員会（パネル）を設置したと発表した。これらの国々は、パネルにおいてインドと政治的な場での対話を望んでいたが、インドは8月28日に来年度の輸出補助政策を発表し、引き続き砂糖の輸出を促進する方針を明らかにした。

これに対して豪州砂糖製造業者協議会（ASMC）の代表は、WTOが正式にパネル設置を発表した直

後に、インド政府が新たな支援政策を発表したことに驚きを隠せないと述べ、インド政府の決定は市場の歪みを招き、豪州の粗糖輸出を停滞させる可能性があるとした。さらに、インド政府には供給過剰状態の国際市場に砂糖を流出させるのではなく、国内での長期保管など代替案を求めたいと語った。また、クイーンズランド州の生産者団体であるCANEGROWERSも、インド政府の発表した輸出補助政策は砂糖の国際価格を低迷させるだろうと懸念を示し、WTOでの手続きについて、新たな補助政策も考慮しつつ、可能な限り迅速に進めてほしいと主張した。

表6 豪州の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (8月予測)	2019/20 (9月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	368	376	380	385	385	1.3
サトウキビ生産量	36,506	33,344	32,566	31,543	30,966	▲ 4.9
砂糖	生産量	4,797	4,463	4,725	4,437	▲ 7.8
	輸入量	68	29	30	30	0.0
	消費量	1,159	1,112	1,068	1,089	2.0
	輸出量	4,004	3,601	3,890	3,391	▲ 15.1
	期末在庫量	969	747	544	531	▲ 0.7
	期末在庫率	18.8	15.8	11.0	11.9	12.3

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, September 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

タイ

2019/20年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：157万ha（前年度比12.2%減）

生産量：1億1500万トン（同12.2%減）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：1323万トン（同14.4%減）

輸出量：1308万トン（同23.4%増）

2019/20年度、砂糖生産量は減少するものの、輸出量は大幅に増加する見込み

タイ中部では平年と比較して少雨傾向が続いているほか、東北部では干ばつの後に激しい豪雨に見舞われており、サトウキビが損傷を受けていることから、2019/20砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビの収穫面積は157万ヘクタール（前年度比

12.2%減）、サトウキビ生産量は1億1500万トン（同12.2%減）、砂糖生産量は、1323万トン（同14.4%減）とかなり大きく減少すると見込まれている（表7）。一方、輸出量については、前年度のサトウキビの豊作により積み上がった過剰在庫を解消するために輸出を強化するとみられることから、1308万トン（同23.4%増）と大幅に増加するとみられる。

農薬の使用規制に向けて、農家や製糖業者向けの技術指導を実施へ

タイ甘しや糖技術者会議（TSSCT）とタイサトウキビ・砂糖委員会事務局（OCSB）は9月以降、サトウキビ農家や製糖業者を対象に、除草剤の一種であるパラコートとグリホサートの適切な使用方法について技術指導を行う予定としている。これは、3種類の農薬（パラコート、グリホサートおよび殺虫剤のクロルピリホス）の使用が10月20日以降法律で

規制されるため、農家は指導を受けた後に政府の実施する試験に合格しなければ、これらの農薬を購入できなくなる。

上述の農薬はいずれも人体に有害とされており、パラコートについては30カ国以上で使用が禁止されている。政府は2019年2月、2年間は3種類の農薬の使用を条件付きで認めるものの、この間に安全性の高い代替農薬を探すとともに、農家へ農薬の適切な使用方法の指導を行うことを決定した。

表7 タイの砂糖需給の推移

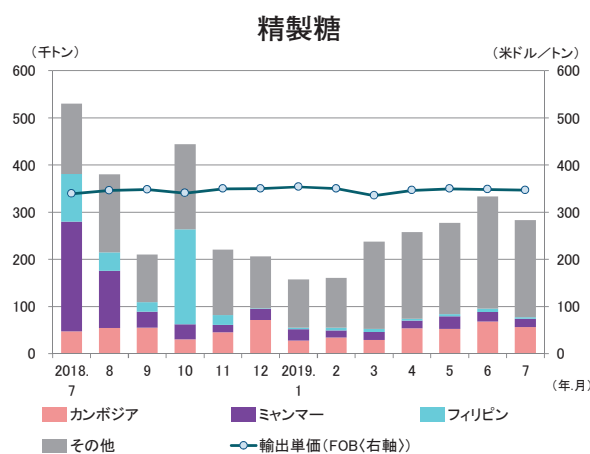
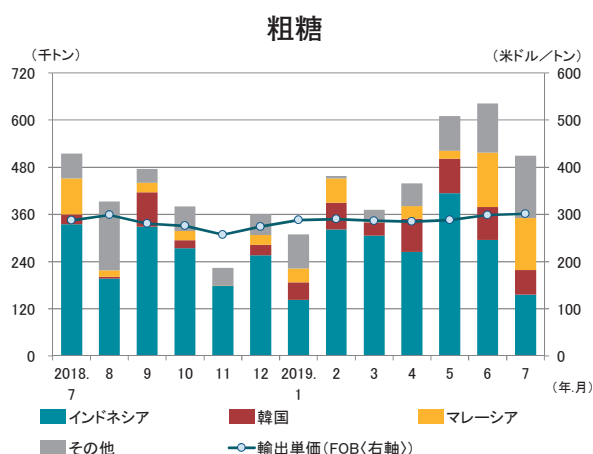
(単位：千ha、千トン、%)

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (9月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	1,578	1,790	1,792	1,573	▲ 12.2	
サトウキビ生産量	92,951	134,929	130,970	115,000	▲ 12.2	
砂糖	生産量	10,657	15,586	15,457	13,234	▲ 14.4
	輸入量	0	6	3	3	0.0
	消費量	3,283	3,347	3,564	3,558	▲ 0.2
	輸出量	7,393	10,077	10,596	13,075	23.4
	期末在庫量	3,951	6,119	7,418	4,022	▲ 45.8
	期末在庫率	37.0	45.6	52.4	24.2	28.2ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, September 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：国・地域別の数値は、直近13カ月の輸出量（累計）上位3位を表示。

グアテマラ

2019/20年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：27万ha（前年度同）

生産量：2727万トン（前年度比0.4%減）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：305万トン（同4.5%減）

輸出量：228万トン（同11.5%増）

2019/20年度、輸出量はかなり大きく増加する見込み

2019/20砂糖年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は27万ヘクタール（前年度同）と横ばいで推移し、生産量は2727万トン（前年度比0.4%減）とわずかに減少すると見込まれている（表8）。砂糖生産量は305万トン（同4.5%減）とやや減少すると予測されている。砂糖の国際的な供給過剰を受けて積み上がった在庫を削減するため、輸出量は228万トン（同11.5%増）とかなり大きく増加すると見込まれている。

鉄や亜鉛、葉酸などの微量栄養素も砂糖への添加を検討

グアテマラでは、栄養不良による失明を防ぐために1975年から砂糖にビタミンAが添加されているが、現地報道によると、鉄や亜鉛、葉酸といった微

量栄養素の添加も行うことが国会で検討されている。

微量栄養素の添加を推進する団体に所属する医師によると、これらの栄養素は肉などの特定の食品にしか含まれていないが、日常的にそれらを摂取できる国民は一部であるという。そのため、国民が頻繁に摂取する食材である砂糖に栄養素を添加することで、乳幼児の認知機能の発達や貧血の改善、妊婦の妊娠中毒症などの予防ができるとしている。鉄や亜鉛、葉酸を砂糖に添加するコストは高くなく、ビタミンAを添加する機械で代用できるため、製糖業者にとっても添加する栄養素の種類を増やすことは大きな負担にはならないと考えられるという。

グアテマラ製糖協会（ASAZGUA）は、微量栄養素の添加が乳幼児や妊婦の健康状態を改善すると科学的に立証されていることや、鉄と葉酸については砂糖の色や味に影響を及ぼさないことを挙げ、国会の検討に前向きな姿勢を示している。

表8 グアテマラの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2016/17	2017/18	2018/19	2019/20 (9月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	256	264	267	267	0.0	
サトウキビ生産量	25,835	25,936	27,383	27,270	▲ 0.4	
砂糖	生産量	2,927	2,960	3,192	3,048	▲ 4.5
	輸入量	0	0	0	0	-
	消費量	898	924	949	974	2.7
	輸出量	2,164	1,827	2,041	2,276	11.5
	期末在庫量	724	933	1,136	933	▲ 17.8
	期末在庫率	23.6	33.9	38.0	28.7	9.3ポイント減

資料：LMC International「Monthly Sugar Information in Major Countries, September 2019」

注：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。